



気になるあいつ  
わかぎゑふ

双葉社

# 伝わらない想い

サンダーバードが実写版の映画になる。ついにきたか！ という感じである。

子供の頃から大好きだった人気シリーズの映画化、胸躍るではないか！ ちなみに私はあの兄弟のうち五男のアランの大ファンだった。兄弟でも地味目のキャラだが、金髪、碧眼のイギリス人らしい容姿であり、あまり出てこないのが魅力だったのだ。次点は三男のヴァージル。クールでピアノを弾いたりする大人の魅力があった。

このことを主人に話すと「お母さんって、子供の頃から渋好みやって

んなあ」とひやかされたが、そうだったのかもしれない。

だが、今回の実写版の映画はアランの成長物語らしい。兄弟の中で主役に抜擢されたということになる。さすがに映画のプロデューサーは分かってますね！と言いたくなる。

しかし…世代間ギャップのとは恐ろしいものだ。私がこんなに盛り上がっているのうちの劇団の若い女の子はまったく知らないとぬかすんである。ちょうど、この間も21歳の吉本アリサという女の子と話をしていたら、「サンダーバードって何ですか？」と、こうだ。

「え、吉本、サンダーバード知らんの？」私はきよんととして聞き返した。「知りません」彼女はものすごく冷静に答えた。

おいおい、それはないやろうと私は説明を始めた。「ほら、イギリスの人形劇のドラマあったやん」吉本はそれを聞いてますます不思議そうな顔をした。「人形劇？」彼女はきつと童話かなにかの人形劇を想像したのだろう。

「そんなもんを実写にしてどうしますん？」と冷たく言い放った。私は誤解されているのが分って、慌てて説明を始めた。

「違うねん、ただの人形劇とちゃうねん！ あのかな…60年代とかに流行ったSFもんでな…」

私が説明すればするほど、吉本は怪訝そうだ。

「無人島にある一家がすんでるわけや。そこに5人兄弟がおってやな、お父さんを中心に地球を守ってるねん」

私がそこまで言うとな彼女は真面目な顔をして、

「無人島で地球を守ってる？ 誰にも頼まれへんのに！ 金持ちの道楽ですよん。第一、兄弟でって…その人ら恋愛とかせえへんのですか？」

と、現実的な問題を投げかけてきた。

うーん…何といたら吉本にサンダーバードの魅力がわかって貰えるのだろうか？ 21歳の女の子には地球防衛軍なんてどうでもいいのだろうか？ 人形劇といえばマペットしかないのだろうか…。だが映画や芝

居の話をさせれば『3D解説者』と異名をとったこの私も、とうとうサ  
ンダーバードの楽しさやキツチュさを伝えることは出来なかった。

最後には絶妙な人形の動きまで再現して見せたのだが…火に油を注ぐ  
ような笑いを招いて終わってしまった。くっそう！ なんとしても吉本  
にサンダーバードの魅力を伝えたい！ と最近はそのことばかり考えて  
いる。あんな小娘に私の子供時代の夢を笑われたまま終わるなんて耐え  
がたい屈辱だ！

こうなったら意地でも奴をサンダーバー党にしてみせる！ とひとり  
息巻いている。それにこの猛暑！ 目標がないより、何かに熱くなつて  
いた方が気が楽ですしね…。

---

【著者略歴】

わかぎあふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より作家・中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーⅡ」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇店」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっこのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『太りすぎの雲』『イブの抜け穴』など多数。

---